

専門分野					
美学美術史、博物館学					
研究課題					
近現代美術史、美術批評、キュレーション					
教育活動					
担当授業科目(学部)					
現代アート論、西洋美術史、博物館概論、博物館資料論、博物館教育論、博物館情報メディア論、博物館実習Ⅰ、専門基礎演習Ⅱ、専門応用演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱ、かたちの文化					
担当授業科目(大学院)					
事項		年月	対象者	概要	
教育方法の実践例					
学習習熟のためのツールとしてのDTPおよびTVの活用の新たな可能性について		平成 25 年 4 月～ 平成 26 年 3 月	リベラルアール学部生、博物館学芸員資格課程学生	デジタル技術のなかでも主に編集に関するツールである DTP(デスクトップ・パブリッシング)および DTV(デスクトップ・ビデオ)を活用し、学習者が学習内容を自らデジタル上で作成していくことで、オリジナルなデジタルデータの貴重さ、その背後にある現実の調査研究の本質、自らの学習理解の限界と可能性について認識を深め、デジタル技術活用が学習者自ら調べ創造する探究心と結びつくものとする実践。	
作成した教材・資料集					
その他教育活動上特記すべき事項					
研究活動					
著書・CD・論文・学会発表・演奏会等の名称		単共の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD 等					
〈BOOK ART 2013-14 Japan-Korea 本の分裂一棚と机〉展カタログ		共	平成 26 年 3 月	BOOK ART 2013-14 Japan-Korea 実行委員会	著者がキュレーターを務めた〈BOOK ART 2013-14 Japan-Korea〉展のカタログで巻頭の序文を執筆(3 頁)。日本と韓国の現代を代表する美術家 20 名に「本の分裂一棚と机」をテーマに作品依頼するためのコンセプトについて詳述し、展覧会の趣旨と意義を解説した。
学術論文					
インスタレーションとその記録写真について ― 博物館学的考察序説(1) ―		単	平成 26 年 3 月	『博物館学芸員課程年報 第31集 平成 25 年度 帝塚山学院大学』帝塚山学院大学博物館学課程研究室、51－56 頁	全国大学博物館学講座協議会西日本部会平成 24 年度研究助成による、現代アートにおいて主流な形式となったインスタレーション・アートについての記録写真に関する研究・提言の一部について、歴史や文献から考察するとともに、現在における事例を踏まえ、詳述した(51－56 頁)。

インスタレーションとその記録写真について — 博物館学的考察序説(2) -1 —	単	平成 27 年 3 月	『博物館学芸員課程年報 第 32 集 平成 26 年度 帝塚山学院大学』帝塚山学院大学博物館学課程研究室、50－52 頁	全国大学博物館学講座協議会西日本部会平成 24 年度研究助成による、現代アートにおいて主流な形式となったインスタレーション・アートについての記録写真に関する研究・提言を展開させ、1915 年ペトログラードで開催され t (0,10 最後の未来派絵画展) が 2014 年にロンドンで再現されたことを調査し、事例報告とし、検証と考察を行った(50－52 頁)。
インスタレーションとその記録写真について— 博物館学的考察序説(2) -2 —	単	平成 28 年 3 月	『博物館学芸員課程年報 第 33 集 平成 27 年度』、帝塚山学院大学博物館学研究室、47－50 頁	現代アートにおいて主流な形式となったインスタレーションに関する写真による記録に関して、2015 年のヴェネツィア・ビエンナーレ、フォンダシオン・ルイ・ヴィトン、ポンピドゥー・センター、パレ・ド・トーキョーなどの調査を行い、検証と考察を行った(47－50 頁)。
インスタレーションとその記録写真について— 博物館学的考察序説(3) -1—	単	平成 29 年 3 月	『博物館学芸員課程年報 第 34 集 平成 28 年度』、帝塚山学院大学博物館学研究室、38－45 頁	2016 年に 4 つの展覧会を企画開催し、実際の展示空間において作品のインスタレーションを行い、博物館学の実践と教育の場とした。同年 9 月にはインスタレーションの最新の潮流が見られるロンドンでの調査も含め、その成果を報告、検証した(38－45 頁)。
学会発表				
演奏会・発表会				
その他の研究発表、演奏				
〈ヤン・ベッカー:アンダーワールド〉展企画・キュレーション	単	平成 27 年 12 月	Ns ART PROJECT	平成 27 年 12 月 4 日から 26 日まで開催されたスイス出身のアーティスト、ヤン・ベッカーによる写真とビデオにとるインスタレーションの展覧会を企画・キュレーションし、現代における美術としての写真表現のあり方を提示し、創造的な批評活動とするとともに。アート・プロデュース研究の実践的な提示とした。
谷井隆太個展「□に捧げるオマージュ」企画・キュレーション	単	平成 28 年 5 月	Ns ART PROJECT	平成 28 年 5 月 7 日から 28 日まで開催された谷井隆太の個展を企画・キュレーションした。谷井は 1979 年兵庫県生まれ、法政大学文学部出身、2010 年に清里フォトアートミュージアムに作品が収蔵され、「トーキョーワンダーウォール 2013」に入選するなど高い評価を得ている。先人が撮影した写真をモチーフにした谷井による異色の絵画 42 点を展示、その魅力を紹介。
野原健司 個展 「ヨロズヨロズ」企画・キュレーション	単	平成 28 年 6 月	Ns ART PROJECT	平成 28 年 6 月 4 日から 25 日まで開催された、2014 年シェル美術賞グランプリに輝いた野原健司による受賞後初めての個展を企画・キュレーション。2010 年の京都・児玉画廊以来、関西では 6 年ぶりとなる。新作絵画、映像アニメーションにより、「当然のごとく在る物に意味の綻びを見つけ出し、飛躍や変容を通して多様な日常を提示」。展覧会タイトルは野原によるヨロヨロ、ズレなどからの造語

中尾美園 個展「Coming Ages」企画・キュレーション	単	平成 28 年 10 月	Ns ART PROJECT	平成 28 年 10 月 8 日から 29 日まで開催された、東洋絵画の古典技法とその保存修復の理念を現代アートとして成立させる稀有な作家、中尾美園による個展 Coming Ages を企画・キュレーションし、現代美術において見過ごされがちなアートの伝統や保存と現代の表現が一致する諸相を提示した。
柚口康二 個展「end and」企画・キュレーション	単	平成 28 年 11 月	Ns ART PROJECT	平成 28 年 11 月 5 日から 26 日まで開催された柚口康二個展を企画・キュレーション。美しい色彩の塗布とシンプルな線により独自の表現を追求する柚口康二の絵画により、ポップ・アートと日本の浮世絵の質を兼ね備え、平面性と断片性を特徴とするモダン・ペインティングの真髄を紹介した。
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
2 つの森 ―デュッセルドルフと南山城村	単	平成 24 年 10 月	〈2つの森〉展テキスト、主催:ギャラリーデン南山城村	企画:岩名泰岳、協賛:京都府地域力再生プロジェクト支援事業、南山城村による国際交流美術展のリーフレットにおいて、ドイツの都市デュッセルドルフの美術史における役割、同地と南山城村との交流の意義、出品作家＝岩名泰岳、真塩かおり、牧嶋武史、レネー・シュビッツァーの作品の特質について、考察・記述を行った。
インスタレーション形式の美術作品展示についての写真による記録に関する研究	単	平成 25 年 10 月	全国大学博物館学講座協議会西日本部会平成 24 年度研究助成、研究成果報告書	全国大学博物館学講座協議会西日本部会における研究報告書において、現代アートにおいて主流な形式となったインスタレーションに関する保存の問題について考察と提言をまとめた。
Depth ―平面のはかり知れない深さ、おぼろげさ―	単	平成 26 年 10 月	〈Depth〉展テキスト、主催:O ギャラリーeyes、平成 26 年 10 月 27 日―11 月 8 日。	O ギャラリーeyes 企画による児玉靖枝と中岡真珠美の 2 人展〈Depth〉のための解説テキストとして執筆し、日本絵画の興行についての問題と出品作家の作品の特質を分析・考察し、今後の絵画のありべき姿の可能性について言及した。
学習習熟のためのツールとしての DTP および DTV の活用の新たな可能性について	共	平成 26 年 11 月	『平成 25 年度 教育力向上の取り組みに関する共同研究報告書』、帝塚山学院大学、47―54 頁。	デジタル技術のなかでも主に編集に関するツールである DTP(デスクトップ・パブリッシング)および DTV(デスクトップ・ビデオ)を活用し、学習者が学習内容を自らデジタル上で作成していくことで、オリジナルなデジタルデータの貴重さ、その背後にある現実の調査研究の本質、自らの学習理解の限界と可能性について認識を深め、デジタル技術活用が学習者自ら調べ創造する探究心と結びつくものとする実践について、報告と考察を行った。
稲垣元則 : Sequence - Photograph” に寄せて	単	平成 28 年 4 月	稲垣元則:Sequence - Photograph 展テキスト、主催:ギャラリー・ノマル	写真や映像、ドローイング等のメディアを用いて作品の制作を続ける稲垣元則によるメディアを変えての 3 回連続の展覧会の初回(2016 年 4 月 23 日から 5 月 10 日)稲垣元則:Sequence - Photograph 展リーフレットにおいて、現代におけるアートと写真の在り方、展覧会の特質を考察した。

感動／感覚の実現 -This must be the den-	単	平成 29 年 3 月	〈Big Sansation〉展テキスト、主催：ギャラリーデン南山城村	主催：ギャラリーデン南山城村、協賛：京都府地域再生プロジェクト支援事業、南山城村による、これまで同ギャラリーで 6 回行われた選抜による絵画展〈Visual Sensation〉展を総括する企画で、活躍を続けている 30 名の作品が一堂に展示された展覧会（平成 29 年 3 月 12 日～4 月 1 日）の経緯、趣旨、今後の展望をまとめたテキストをリーフレットに寄稿。
研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他の外部資金による活動				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
インスタレーション形式の美術作品展示についての写真による記録に関する研究	全国大学博物館学講座協議会西日本部会平成 24 年度研究助成		研究代表者（概要：現代アートにおいて主流な形式となったインスタレーションに関する保存や記録写真について、歴史や文献、現在における事例の調査を踏まえ考察・検証し、それについての美術館における問題の指摘と提言を行った。）	
	支給額		支給年度	
	180,000 円		平成 24 年度	
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要		
学内委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
平成 23 年 4 月（平成 22 年 4 月）～平成 24 年 5 月	帝塚山学院理事、帝塚山学院評議員、リベラルアーツ学部長、入試委員会・教育開発支援センター運営委員会・オープンキャンパス委員会委員			
平成 23 年 4 月～平成 29 年 3 月	資格課程委員会委員			
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	学生部委員会・オープンキャンパス委員会委員・ハラスメント防止委員会委員			
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	学生部委員会リベラルアーツ学部小委員長			
平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月	大学資格課程委員会委員委員長			
平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月	リベラルアーツ学部選出大学評議員			
平成 24 年 4 月～平成 28 年 12 月	任期制大学教員採用人事委員会（情報メディア学科任期制教員 3 回、心理学科任期制教員 1 回）			
平成 29 年 1 月～平成 29 年 2 月	大阪狭山市観光ポスター選考委員会			
社会活動				
学会役員				
就任期間	学会役員名			
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共の別	年月	場所	概要
大阪狭山市立公民館講座 成人大学講座「芸術に親しむ」③現代美術～メディアアートと町おこし～	共	平成 26 年 6 月	大阪狭山市立公民館	帝塚山学院大学生涯学習センターがコーディネート、共催の大阪狭山市市立公民館による市民向け「成人大学講座」。古今東西の芸術の魅力を研究者や作家がわかりやすく紹介するシリーズ

				の第 3 回として、とかく難解とされる現代美術について身近にあるニューメディアと町おこしの観点から紹介・解説を行い、親しみをもって理解されるものとなることを目指した。
帝塚山学院大学 芸術と文化特別講演会「現代アートと写真に見るヨーロッパと日本」	共	平成 26 年 7 月	帝塚山学院大学	スイスより現代写真家オリヴィエ・クリスティナ氏を迎え、現代アートとしての写真制作から見たヨーロッパと日本の関連や差異について講演を行う際、ヤン・ベッカー帝塚山学院大学非常勤講師とともにコーディネーターを務め、進行を行った。
OUT OF ICE - Elizabeth Ogilvie- 展オープニングイベント(対談)	共	平成 26 年 11 月	海岸通りギャラリー・CASO	スコットランド現代美術作家、元エディンバラ大学教員エリザベス・オグルビーの展覧会開幕イベントとして、同氏との対談形式による講演を行い、作家による作品解説を日本人にもわかるように補足し、現代美術表現についての理解を助けるように努めた。
稲垣元則:Sequence - Photograph 展オープニングトーク	共	平成 28 年 4 月	ギャラリーノマル	写真や映像、ドローイング等のメディアを用いて作品の制作を続ける稲垣元則によるメディアを変えての 3 回連続の展覧会の初回(2016 年 4 月 23 日から 5 月 10 日)のオープニングにおいてトークゲストとして参加し、現代におけるアートと写真の在り方、展覧会の特質を作家とともに解説した。
Big Sensation 展オープニング・ゲスト・トーク	共	平成 29 年 3 月	ギャラリーデン南山城村	主催:ギャラリーデン南山城村、協賛:京都府地域再生プロジェクト支援事業、南山城村による、これまで同ギャラリーで 6 回行われた選抜による絵画展〈Visual Sensation〉展を総括する企画で、活躍を続けている 30 名の作品が一堂に展示された展覧会(平成 29 年 3 月 12 日-4 月 1 日)のオープニングにて、経緯、趣旨、今後の展望について解説した。

学外機関委員等

就任期間	機関名・委員名・役職名
平成 24 年 9 月～現在	大阪狭山市市民活動促進委員会委員
平成 25 年～平成 26 年	姫路市美術展(第 67 回、第 68 回)審査員(彫塑)
平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月	BOOK ART 2013-14 Japan Korea 展キュレーター (同展実行委員会主催)
平成 26 年 3 月	大阪狭山市狭山池築造 1400 年記念事業シンボルマーク選考委員会委員長
平成 27 年 11 月	狭山池築造 1400 年記念切手シート用絵画選考委員会委員長

その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項

海外での活動

海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること

期間	国名	概要